

## 神経発達症（発達障害）のある児童・生徒を支援する方法 -学校でできる困難の見立て、対応を学ぶ-

(幼・小・中・高教員対象：定員 50 名)

時間	内容	担当者
9:20～9:30 (10分)	ガイダンス	たかはま こうじ 高浜 浩二
9:30～10:40 (70分)	(1) 児童・生徒が示す行動問題のアセスメント	高浜 浩二
<p>神経発達症（発達障害）のある児童・生徒が示す行動問題はさまざまである。一般的な対応では効果が見られず、なぜそのような行動をするのか理解に苦しむこともある。本講義では、個人を環境との相互作用から捉える応用行動分析学の観点から、行動問題を理解するためのアセスメント方法について、講義する。</p>		
休憩 (10分)		
10:50～12:20 (90分)	(2) アセスメントに基づいた行動問題への対応	高浜 浩二
<p>(1) で示したアセスメント方法を基にして、具体的な対応方法をどのように立案していくかについて、講義および演習を行う。演習では、具体的な事例を挙げて、アセスメントから対応方法の立案までのプロセスをグループ毎に実施してもらう。</p>		
12:20～12:40 (20分)	テスト	高浜 浩二
昼休み (50分)		
13:30～14:40 (70分)	(3) 発達障害特性の見立てと児童・生徒が経験しやすい心理的ストレスの理解	ひだか もとのぶ 日高 茂暢
<p>神経発達症（発達障害）の基本的な特性について講義を行う。次に、受講生を対象に、LD 学会監修「LD・ADHD 等の心理的疑似体験プログラム第 3 版」を行う。「読み」「書き」「聞く」「話す」「不器用」などの困難について、児童・生徒が学校現場で感じやすい心理的ストレスを疑似体験することを通じて、障害特性の理解や支援方法について小グループで検討してもらう。</p>		
休憩 (10分)		
14:50～16:20 (90分)	(4) 心理的ストレスを減らす工夫と環境づくり	日高 茂暢
<p>前半では、(3) に引き続き、「LD・ADHD 等の心理的疑似体験プログラム第 3 版」を行いながら、支援のあり方を検討する。後半では、受講生から出てきた支援方法を踏まえ、通常学級で実施がためられる支援方法について考える。特に、実施のメリット・デメリット、実施を難しくしている障壁（バリア）を取り除く方法について、小グループで検討してもらう。</p>		
16:20～16:40 (20分)	テスト	日高 茂暢
16:40～16:50 (10分)	アンケート	日高 茂暢

